

1 はじめに

平成27年度、東京都教育研究員として、「オリンピック精神を生涯にわたって生かす児童・生徒の育成」について研究した。その際、さまざまな先行研究に目を通し、高等学校、とりわけ定時制課程での実践事例の少なさに気が付いた。そのため、実施計画を立てる際には試行錯誤を繰り返し、平成32年(2020年)まで継続した指導を可能とし、また、定時制課程における事例も増えるよう心がけた。

2 オリンピック・パラリンピック教育が目指す7つの価値

IOC(国際オリンピック委員会)とIPC(国際パラリンピック委員会)は、それぞれ次のような価値を制定している。そのため、本校でもオリ・パラ教育を推進するに当たり、この7つの価値を重要事項と捉え、指導計画を決定した。

オリンピックの3つの価値

- ①卓越(Excellence)
- ②友情(Friendship)
- ③敬意/尊重(Respect)

パラリンピックの4つの価値

- ①勇気(Courage)
- ②強い意志(Determination)
- ③インスピレーション(Inspiration)
- ④公平(Equality)

3 本校におけるオリンピック・パラリンピック教育の意義

上記の7つの価値を基に、平成27年度、本校におけるオリンピック・パラリンピック教育の意義を以下のように決定した。

「自らの目標をもってベストを目指す意欲と態度を備えた人間、スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間、日本人としての自覚と誇りをもち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間の育成を目指す。」

また、東京都は、同一都市として世界で初めて2度目の夏季パラリンピック競技大会を開催することとなった。そのため、2020年の東京オリンピック・パラリンピック(以下、「東京2020大会」とする。)では、過去の大会以上にパラリンピックが重視されている。障がい者理解を通して、人々の多様性を尊重し、障がいのある人や外国人と共に生きる「心のバリアフリー」を浸透させるべく、本校定時制課程では、平成28年度は「総合的な学習の時間」と「特別活動」の時間を用い、パラリンピック教育を行った。

4 期待する生徒像

本校定時制課程でオリンピック・パラリンピック教育を実践するにあたり、本校の現状を踏まえ、下記の3つの像を期待する生徒像とした。

- (1) 目標に向かって、全力で取り組み、体と脳と心の健全な調和を育む生徒
- (2) 他者との交流を通して、互いの理解を深め、平和な社会を目指す態度を育む生徒
- (3) 他者の思いを理解し、敬意をもって接するフェアプレー精神を育む生徒

5 東京2020大会までの年間指導計画(テーマ)

東京2020大会まで4年あることから、年間の指導テーマをひとつに絞り、下記のとおり、オリンピック・パラリンピック教育を展開することとした。また、使用する時間は、「総合的な学習の時間」と「特別活動」の時間を中心としている。

年 度	年 間 テ ー マ
平成28年度（2016年度）	パラスポーツについて、知識・理解を深める。
平成29年度（2017年度）	オリンピックについて、知識・理解を深める。
平成30年度（2018年度）	スポーツを支える活動を知り、体験する。（スポーツボランティアの実践）
平成31年度（2019年度）	東京2020大会への関わり合い方を考え、実践する。

6 活動内容

オリンピック・パラリンピック教育の興味深いところは、ただオリンピック・パラリンピックに関連する事柄を座学で学ぶだけではなく、実際に身体を動かし、他者とのコミュニケーションを図りながら進めていくことができるという点にある。そういった点を考慮し、本校でも、ただ単に知識を身に付けさせる教育ではなく、生徒自身が主体的に学ぶことができる教育プログラムを考えた。

(1) 壁新聞の作成及び発表会

「総合的な学習の時間」内で実施した。まず、基礎的な知識を学び、その後、自身で興味関心を持った事柄について調べ学習を行う。最後に、各自で調べた内容をクラスメイトに向け、発表するというものである。オリンピック・パラリンピックについての基礎知識を学び、その歴史や卓越性について理解を深めさせることを目標とした。

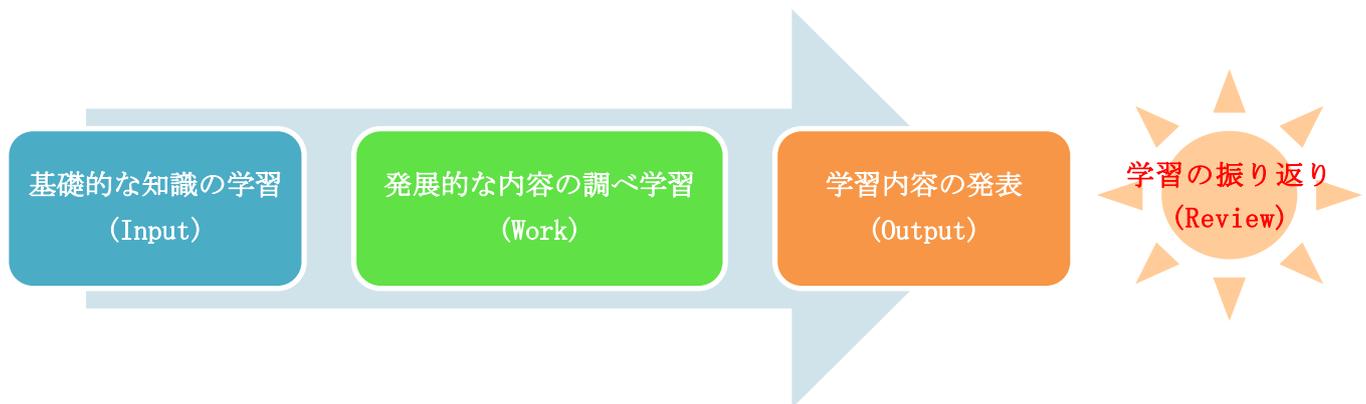


図 「総合的な学習の時間」での学習の流れ

(2) 外部講師による講演会・体験会

パラアスリートの卓越性や強い意志を感じ、敬意を持ち、尊重する意識を持たせることを目標とし、車いすバスケットボールチーム NO EXCUSE から3人の選手を講師としてお招きし、講演会と体験会を実施した。

(3) 生徒主体の球技大会

開会式から閉会式まで、体育委員を中心として行うことで、大会運営の方法を学び、達成感を味わわせることを目標とし、3学期末に球技大会を行った。

(4) スポーツボランティアの体験

平成30年に実施予定である。校外でスポーツイベントのボランティアを行い、スポーツを支える意識の醸成を図る。

(5) 防災訓練と地域の清掃活動

帰属意識やコミュニケーション能力を醸成することを目標とし、地域と連携した活動を行った。2学期には、防災訓練を行い、その中で、高校生として災害時にどのように行動すべきかなどについて学んだ。3学期には、学校近隣の地域清掃を行い、地域への帰属意識を高めた。

7 平成28年度の「総合的な学習の時間」における実践

平成28年度は、パラスポーツの知識や理解を深めることをテーマにさまざまな活動を行った。下表1、表2は、「総合的な学習の時間」と「特別活動」での取り組みである。

表1 「総合的な学習の時間」における取組

時数	テーマ	身に付けさせたい力	内容	指導上の工夫
1 時間目	ガイダンス	「人権感覚」 「パラリンピックの基礎知識」	①障がいやパラスポーツについて知り、人権感覚を身に付ける。 ②学習の進め方を確認する。 ③パラリンピックの始まりや種目を知る。 ④自己の興味や関心に基づき、調べ学習のテーマを決定する。	①障がいやパラスポーツについて学習することで、偏見等のない正しい人権感覚を身に付けさせる。 ②映像や写真などの活用により、パラリンピックをイメージしやすくする。 ③扱いやすいテーマを数種類用意し、生徒をサポートする。
2～3 時間目	調べ学習	「情報収集能力」 「課題解決能力」 「協調性」	①学習シートに沿って書物やインターネットを利用する。 ②グループの仲間と役割を分担する。	①カテゴリー別にグループを編成し、協力して調べられるよう指導する。 ②毎時間、リアクションペーパーを提出させ、生徒の抱く意見や疑問には適宜答える。
4～5 時間目	壁新聞作成	「資料作成能力」 「課題解決能力」 「協調性」	①グループの仲間と協力して調べた内容を正確に伝える文章を作成する。 ②グループで工夫して分かりやすい紙面を作る。	①見やすい紙面のテンプレートを用意しておき、作業を進めやすいよう支援する。 ②情報の羅列にならないよう気を付け、意見や課題解決方法についても指導する。
6 時間目	発表会	「プレゼンテーション能力」 「思考する力」 「判断力」	①グループの仲間と役割を分担し、必ず全員が発表に携わるよう支援する。 ②他のグループの発表を聞き、ポイントや感想をまとめ、そのグループにフィードバックする。	①前時までに役割分担を決めさせておく。 ②レビューシートを書かせ、発表したグループに返すことで、各グループでの振り返りをさせる。
7 時間目	パラスポーツに挑戦！	「積極性」 「スポーツを楽しむ態度」	①パラスポーツを体験し、障がいやパラスポーツ、パラリンピックへの理解を深める。 ②パラリンピック競技の面白さや卓越性について理解する。	①ルールをまとめた模造紙を教室や体育館に掲示し、スムーズにゲームに入れるようにする。

表2 「特別活動」における取組

時期	学校行事名	身に付けさせたい力	内容	指導上の工夫
2 学期	アスリートによる 講演会・体験会 講師：NO EXCUSE (車いすバスケット ボールチーム)	「共感する力」 「積極性」 「スポーツを楽しむ 態度」	①アスリートから体験談 を聴き、目標に向かっ て努力することの大切 さを学ぶ。 ②トップアスリートのプ レーを見て、その卓越 性を実感する。 ③パラリンピックへの興 味や関心を高める。	①「総合的な学習の時間」やホ ームルームと連携し、事前 に車いすバスケットボール への理解を深めておく。 ②司会及び進行を生徒に行 わせる。 ③スポーツを支えることに ついて理解を深められる 講演会にする。
2 学期	防災訓練 講師：下高井戸商店 街振興組合石井専務	「コミュニケーション 能力」	①下高井戸商店街振興組 合の石井専務から、東 日本大震災時の商店街 の様子を伺い、自分た ちにできること、また、 高校生としてやるべき ことを学ぶ。 ②班に分かれて、ケース スタディを行い、実際 の災害時に何をすべき か思考する。	①夏季休業中に生徒会生徒ら で近隣住民にインタビュー を行い、東日本大震災の時 に困った事や高校生に臨 む災害時の行動などにつ いて伺う。 ②生徒全員が当事者意識 を持ち、災害時にどのよ うに行動すれば良いか考 えさせる。
3 学期	生徒主体の球技大会 MATSUTEI BALL GAMES	「主体性」 「協調性」 「リーダーシップ」 「フェアプレー精神」	①主体的に考え、行動す る力を培う。 ②自分のチームだけでなく、 相手チームも応援でき るようにする。 ③全学年での交流を通し て、学校全体の一体感 を向上させる。	①各クラスで体育委員を選 出し、グループやクラスの 意見をまとめる機会を提 供する。 ②3学期から授業を活用し、 大会種目の練習をする。 また、ルール周知、審判 割当の決定、体育委員に よるリハーサル等、準備 を重ね、円滑な大会運営 に万全を期す。 ③大会運営には、準備や 片付け、選手を鼓舞する 応援の大切さを理解する とともに、全員の協力で 大会が成り立っている意 識を持てるよう指導す る。
3 学期	地域清掃	「地域への帰属意識」	①1年間の奉仕体験活動 の反省を行い、高校生 として地域に対して貢 献できることや奉仕へ の考え方を再確認す る。 ②地域の清掃活動を行 う。	①奉仕体験活動のまとめ として、今までの活動を 振り返る。 ②学年ごとに清掃場所を 決め、ゴミ拾いを行う。

8 学習の様子

(1) 総合的な学習の時間

発表の際は、一人一人が前に出て、自分が調べた内容について他の生徒に説明をした。どの生徒も、新聞や発表に工夫が見られ、その生徒のこだわりが感じられる仕上がりであった。また、クラスメイトの発表を聴き、レビューシートを書いた後に、発表者に返却し、意見や感想を共有するよう工夫した。

特筆すべきは、下の写真（左）の3年生がパワーリフティングのルールや記録について調べ、リオパラリンピックでイランの Siamand Rahman 選手が 305kg の世界新記録を出したことを知り、パラアスリートの卓越性を実感できたことである。



左：壁新聞と発表後の生徒 中央：発表を聴く生徒たち 右：配布資料とレビューシート

(2) 防災訓練

下高井戸商店街振興組合の石井専務から、東日本大震災時の商店街の様子を伺った。また、夏季休業中に生徒会を中心とした有志生徒によって行われた地域防災調査の結果を聴き、学校近隣の防災について学んだ。最後に、日本大学文理学部の学生も交え、実際に被災した場合、高校生として、どう行動すべきか、自分たちに何ができるか等について考えた。



左：震災時の様子を語る石井専務 中央：調査結果を発表する生徒 右：ケーススタディ中の様子

(3) アスリートによる講演会と体験会

車いすバスケットボールチーム NO EXCUSE の選手3人を講師としてお招きした。前半は、車いすバスケットボールを始めた理由や競技のルール、競技用車いすの構造などについてお話いただき、後半は、生徒全員が競技用車いすに乗って、選手を相手に7対2のミニゲームを行った。



左：講演を聴く生徒たち 中央：練習中の生徒たち 右：ミニゲームを行う生徒たち

(4) 地域の清掃活動

オリンピック・パラリンピック教育の一環として、地域との連携した活動を行い、地域への帰属意識やコミュニケーション能力の向上を目指してきた。3学期には、1年間を通して行ってきた奉仕体験活動のまとめとして、地域へ感謝の気持ちを込めて清掃活動を行った。



左：清掃場所の分担

中央：トングでゴミを拾う生徒

右：この日集めたゴミ

(5) 生徒主体の球技大会 MATSUTEI BALL GAMES

3学期に、オリンピック・パラリンピック教育の年間指導の集大成として、生徒主体の球技大会を行った。本校は、体育祭を実施していないため、体育委員会を中心に実施種目や試合進行などを自分たちで運営していくこの球技大会は、大いに盛り上がりを見せた。



左：準備体操をする生徒たち

中央：生徒たちの試合の様子

右：体育委員長による生徒表彰

9 結びに

実際に1年間オリンピック・パラリンピック教育を行ってきた結果、予想以上に生徒たちが楽しんでいる姿を確認することができた。今後は、当初の計画を活かしつつ、生徒の意見も取り入れながら、オリンピック・パラリンピック教育を進めていきたい。また、教員全体で年間指導計画を立て、「保健体育」以外の他教科でも積極的にオリンピック・パラリンピック教育を推進していく所存である。